

香川宜子

Kikuko Kagawa



ユダヤアークの  
秘密の蓋を開いて

日本から

あわ

ストーリー

が始まります

すべての道は

四国の大秘密政策

隠国阿波

へと通じる

ユダヤ人も大注目！

「アウエー・マリアのヴァイオリン」を  
上梓した日本人女医が挑む  
「歴史次元転換」の奇一

旧約聖書&

イエスのDNAが

阿波で蘇る



## まえがき ユダヤと阿波の超歴史的シンクロニシティ

西暦六〇〇年以前の日本の歴史は、ある一つの事実を隠すために、平安京以前の中心人物によってあらゆる方策が練られ、やがて完全に塗り替えられてしまいました。

聖書には「(自然破壊、環境悪化、戦争等で崩壊しようとする地球の) 最期には神の栄光さえ知らない東の日出る島の人たちが地球を護るために歌(音楽)を携え神の栄光を伝えるにやってくる」というくだりがあります。「隠された古代日本」「聖書の言葉」とはいったい何を意味するのでしょうか？ その謎が解き明かされたとき、今までとは全く違う「日本人の宿命」が浮かび上がってきます。

この本は、拙著小説『アヴェ・マリアのヴァイオリン』(KADOKAWA)と、その原典となる自費出版書『ザ・ヴァイオリン』から生まれた副産物で、(株)ファルコホールディングスが発行する『シュネラー』という医学雑誌に四年間連載されたものを一部改編し、一冊に

まとめたものです。

二〇一三年暮れ、私は『アヴェ・マリアのヴァイオリン』で小説家デビューすることになりました。八年もの間ひっそりと書架を温めていた『ザ・ヴァイオリン』が、奇跡的に出版社の編集部の目に触れ、その改訂版として出版していただけることになったのです。作家でもなく、新人賞など何もない無名無冠のデビューです。そのいきさつは文中でも触れていますが、すべては神の成せる業わざとしか思えない、宝くじに当たるよりも低い確率の偶然が重なって日の目を見ることになったのです。

『アヴェ・マリアのヴァイオリン』はアウシュヴィッツ強制収容所と板東俘虜収容所ぼくどうふりよ（徳島県鳴門市）を対比させた音楽の物語がテーマになっています。原作『ザ・ヴァイオリン』は英語翻訳本も出版されていたために多数のユダヤ人の目に触れ、「アウシュヴィッツと関係のない日本人がなぜ？」と話題になったそうです。

彼らによると、「この物語は四国剣山つるぎさん（徳島県）の神ヤハウエ（ユダヤ人はみだりにヤハウエという名を口にするのを禁じられているため、実際にはアドナイと言うそうです）が、剣山の麓ふもとにいるあなたに書かせた作品であり、我々が待ち望んでいた世界の甦よみがえりりがやっと始まるのだ」とのことですが、宗教や神がかりなことに無縁の私には何のことやらわからないまま、

「いえいえ、そんな大それたものではありませんよ。私はただの田舎のおばちゃん医者です。

たまたま、頭に降って湧いた映像を書き留めたまでのことで……」と苦笑いをしながらも、やがて大きな歴史の渦に巻き込まれていくのでした。

それからというもの、元駐日イスラエル大使、エリ・エリヤフ・コーヘン氏やアメリカの正統ユダヤ人たちと、四国の名峰・剣山へ登り、旧約聖書に出て来るアークせいくわく（聖櫃）。ソロモンの秘宝）が隠されているという鍾乳洞へと案内されることになりました。そして、日本人でも知らない古代阿波（徳島）の秘密を聞かされるうちに、なぜ阿波の歴史が封印されなければならなかったのか、聖書に隠された日本の宿命とは何だったのかということを知るに至ったのです。聖書なんて読んだこともなかった私は、「そもそもアークって何？」という疑問を解くために、聖書やユダヤの歴史まで研究する破目になってしまいました。そのうちに、私が望んだわけでもないのに記紀、万葉集、阿波地方史、魏志倭人伝、聖書などを研究されている方々から書物や書翰しょかんが届くようになりました。ユダヤ人や地元の百歳を超える長老たちの証言も加わって、断片的な事柄が一本の線としてつながり、ついにこれらの謎が解明されたのです。

中でも、その鍵を解く発端になったのは、聖書と言霊研究ことたまの第一人者、故高根正教氏たかねまさのりの書物と、四国剣山顕彰学会の方たちとの出会いでした。そして自分なりに考察を加えて「ザ・ヴァイオリン秘話」というタイトルで前出の医学情報雑誌に連載されるうち、多くの読者（医師、

医学教授等)からご好評をいただくようになり、医師から一般の方々へと徐々に広がっていききました。発行元にはバックナンバーの取り寄せが相次ぎ、すっかりご迷惑をかけてしまいました。連載は四年間・十五回にわたりましたが、奇しくもこの期間は『ザ・ヴァイオリン』が『アヴェ・マリアのヴァイオリン』として改訂出版され、「青少年読書感想文全国コンクール・高校の部」の課題図書に選出されるまでの四年間とびつたり一致しているのです。

現在に至っても、世界各地で不穏な情勢が続き、日本でも集団的自衛権や平和憲法の見直しなどを巡って意見が対立しています。「自衛権行使が戦争に加担する」ということは絶対でない」という安倍総理大臣の発言は、換言すれば、「安倍政権時代にはない」ということかも知れません。同じようなことは、「原発反対」を唱えながら閣僚になった途端に「原発容認」になってしまう政治家にも言えます。トップの人だけが知り得るような外圧のことには一言も触れません。これら一連の動きには、民衆には「仕方がない」と思わせるように持つていく、まことしやかに仕組まれた軍事産業(軍産)者たちの策略が潜んでいるのかも知れません。戦争とは、将棋の棋士のように、何十手も先を読むことができる者によって計算し尽くされた世界の出来事であり、利益のために無知な民衆を操るシステムなのかも知れず、我々庶民にとって平和とは、まるで出来損ないの弥次郎兵衛のようなものです。できるだけ多くの人たちの意識

を「神の望む時代」へと方向付けるために生まれたのが『アヴェ・マリアのヴァイオリン』なのかも知れません。平和は、一人でも多くの意識改革があつてこそ成し遂げられるもので、困難な道です。

医師という職業柄、神様とか偶然的必然、波動、心理学者ユングの提唱するシンクロニシティ(無意識な集団的共時性)などという分野は笑って無視していたのですが、『ザ・ヴァイオリン』から『アヴェ・マリアのヴァイオリン』へ、そしてそれに付随する多くの不思議なことが、ある方向性を持つて動き始めたとき、自然と私の考えも変わらざるを得なくなっていきました。

「復活祭のことをイースター(Easter)と言いますが、イースターの語源は何ですか?」と西洋人に聞いても、おおよそ知りません。試しに「Easterとはeast(東)にerが付いて、東の人」という意味です。だから東の果ての我々が復活をもたらせるのですよ」と教えてあげてみてください。きっと感動されますよ。

人々がお互いに尊重と慈愛の中で生きる喜びを感じ、鳥のさえざる自然の声と美しい音楽に溢れる世界——そんな神の望む良き世界を迎えるために、東の日出る鳥の民、つまり我々日本人が使命を持つているということなのです。

せっかくいい大学を出ても自分の思う会社に入れないし、自分の価値を見出せない社会に失望したから、生きている実感を求めようと過激派組織にでも入ってみようか……なんてことは、日本人の価値ではありません。

いろんな苦難や困難、あるいは突然降りかかる災難を乗り越え、そこから教訓を引き出し前向きに生きていくうちに、慈愛や尊重する気持ちが生み出されてきます。そこまで来てこそ「人の価値」なのです。その過程で自分なりに貢献できること、貢献したいと思うことが必ず見えてくるでしょう。いままではそうすることが、単なる道徳観として語られてきましたが、本書は、難解な聖書に書かれてあることが、神の考えそのものであることを証明し、これからどうすればいいかを皆様に考えていただくというものです。

それでは、ユダヤの歴史と、阿波の国に隠された知られざる数々の秘密を紐解いてみることにしましょう。

日本からあわストーリーが始まります／目次

1 まえがき ユダヤと阿波の超歴史的シンクロニシティ

## 第一章 日本人が書いたユダヤの話にユダヤ人が泣いた！ 『ザ・ヴァイオリン』はこうして誕生した

22 ハリウッドの赤い絨毯

26 不思議な国のよしこさん

## 第二章 イスラエルの滅亡から 日本の歴史が始まるのは偶然ではありません

- 30 磯上乃古事記／古事記は日本発祥の地「磯上乃古国」の出来事を記したもの  
32 旧約聖書とアラブ世界が日本とリンクする不思議  
34 旧約聖書の中心人物ヨセフとモーゼ  
36 十二支族とヤハウエの民の約束の地カナンは日本  
38 羊飼いのダビデの黄金の七十年から民族離散へ  
40 日本の歴史誕生秘話

## 第三章 有力なユダヤ人も次々と訪れる／剣山に隠された伝説

- 46 ヒヒラギで建てられた八倉比賣神社

- 47 阿波神代文字と祝詞  
49 女王卑弥呼と剣山  
55 空海と「かごめ歌」／その封印と謎解き  
58 いろは歌にも意味が……／イエス、咎なくして死す  
61 アークと剣山のお神輿

## 第四章 東の日出る島／阿波が「言挙げせぬ隠り国」になった理由

- 66 東の日出る島「日本」を目指して  
70 宝船と七福神はイスラエルから渡来したスファラディ系ユダヤ人のこと  
72 剣山へ向けてアークを運び込む  
74 邪馬台国は四国だった？  
76 国歌「君が代」に隠された古代ヘブライ語  
78 記紀と各地の風土記／阿波風土記はどこへ消えた？

## 第五章 阿波(徳島)に残る天皇出身地名の謎

伊勢神宮、諏訪大社、下賀茂神社その他の神社の元宮も阿波にある

88 古代ヘブライ語と日本語の相似性

93 聖徳太子『未然記』の予言／二〇三〇年危機説とは？

94 倭(阿波)と大倭(奈良)／歴史学者はここを間違ってしまった

96 古代天皇の出身地

## 第六章 イザナギ・イザナミ伝説の痕跡を辿って

104 神代七代の時代

106 イザナギ・イザナミの国生み

108 日本列島「大八州」の形成

113 イザナギ・イザナミの子孫、武内宿禰

## 第七章 イザナギ、黄泉の国から脱出する

118 イザナミが生んだ神々

121 黄泉の国脱出物語

127 黄泉の国から生還したイザナギ

## 第八章 阿波Ⅱ邪馬台国と日神子（卑弥呼）の最期

- 148 同胞との再会  
143 剣山のアーク伝説に生涯をかけた人たち  
140 日神子の実像  
137 日神子とスサノヲと天の岩戸  
131 日神子の最期

## 第九章 ロスチャイルド家と都市伝説

- 156 ロスチャイルド家の始まり  
155 イスラエル建国の費用はロスチャイルド家から  
153 日本におけるロスチャイルド家の役割

- 163 驚くべきロスチャイルド家の覇権<sup>はげん</sup>  
160 トリック  
157 ロスチャイルド家とフリーメイソン

## 第十章 阿波で蘇<sup>よみがえ</sup>る実在した神話の主人公たち

- 178 漢字の起源も聖書から  
177 イスラエルの祖、アブラハム  
176 イザナギと日神子の遭遇  
174 スサノヲ命とクシナダ姫  
172 大國主命<sup>おおくにぬしのみこと</sup>  
171 事代主命<sup>ことしろぬしのみこと</sup>／えびすさんの事跡も徳島（阿波）にある  
170 少名比古那神と手力男命<sup>すくなひこな たぢからおのみこと</sup>  
169 神武天皇と神武東征



阿波から大和へ／阿波そっくりの地名を大和に付けていく

仁徳天皇以降の出身地

阿波と秦氏

藤原不比等の陰謀

熊野の戦い／和歌山でなく徳島がその舞台

阿波の藤原京／阿波で千年、京で千年

空海と四国八十八ヶ所／神山地方には今も原始キリスト教の信者が多くいる

上賀茂神社と下鴨神社

珈琲ブレイク 陛下、ぜひ京都にお戻り戴きたいです！”

## 第十一章 もつひとつの国アルツァレット

### 倭建命と聖徳太子の足跡を辿って

イスラエル国歌「ハティクヴァ」

倭建命や聖徳太子はウチのご近所さんです

倭建命伝説

府中を「こう」と読む理由

大御和神社の二つの鍵が意味するものは？

聖徳太子の出生地

ユダヤを隠した聖徳太子

## 第十二章 OUR(阿波)STORY

徳島にあるキリスト神社

神の正体

My story、His story (History)、Our (阿波) story

似て非なる「叶う」と「吐く」

懲りない人たち

第十三章 『ザ・ヴァイオリン』から生まれ変わった  
『アヴェ・マリアのヴァイオリン』

『アヴェ・マリアのヴァイオリン』誕生の軌跡 大都会の喫茶店にて

『ザ・ヴァイオリン』異聞

ハリウッド裏話

明と暗

250 244 243 238

第十四章 板東俘虜収容所と三つの第九

ばんどうふりよ

青天の霹靂<sup>へきれき</sup>

日本で初めて第九が演奏された板東俘虜収容所

三つの第九

第九の話その二

第九の話その三

265 263 260 259 254

あとがき

269

参考文献類

277



徳島市の神武天皇銅像（日本最古の銅像）

装丁 重原 隆  
校正 妻秋 アートセンター  
本文仮名書体 文麗仮名（キャップス）

## 第一章

日本人が書いたユダヤの話に  
ユダヤ人が泣いた！  
『ザ・ヴァイオリン』は  
こうして誕生した

## ハリウッドの赤い絨毯<sup>じゅうたん</sup>

ある日の朝方、夢を見ました。しかもカラーで。

真っ赤なハイヒールでレッドカーペットを踏みしめ、ハリウッドアカデミー授賞式の舞台に立ち、「ミスター○○、ミセス○○、アンド○○……、サンキューソウマッチ！」と流暢な英語でスピーチを始める私。館内ではシューベルトの「アヴェ・マリア」の生演奏が流れ、なにがしかの男性歌手が歌い、そして、小さなヴァイオリンを持ったたくさんの子どもたちが、万雷の拍手喝采を浴びている……。

夢が覚めてから数日後、本物のアカデミー授賞式のテレビ中継がありました。その年ばかりは、まるで他人事ではないくらい気持ちが高ぶって、「○○さんサンキューの○○には誰々を入れよう……十人では多過ぎるかなあ」などと真剣に悩みました。しかし、大きな落とし穴がありました。脚本賞はあっても原作賞ありません！

私は二〇〇八年の暮れに、『ザ・ヴァイオリン―收容所のメロデー』という本を趣味がて

ら自費出版しました。実は二〇〇五年に『アヴェ・マリアと梵天の子供達』というタイトルで発行していたのですが、出版社の倒産に遭い、再出版してタイトルを変更したものです。それは、この世で最も辛い音楽を奏でさせられたアウシュヴィツ音楽隊と、この世で最も感動的な音楽の歴史を持つ板東俘虜收容所音楽隊の二つを対比した史実にもとづく物語でした。

企画出版という自費出版のようなものですから、そんなに部数は流通していませんが、手に取ってくださった方々から、「ハリウッド映画で見たい」「きつとアカデミー賞も取れると思う」といったファンレターが届くようになりました。

本屋さんにはお菓子を持って挨拶に行かないと店頭置いてくれません。お医者さんは頭を下げられても頭を下げることはめったにない職業ですから、営業マンの苦しみも味わい、少しずつまっとうな“人”の苦難の道を歩くようになっていきました。著作者としての責任上、読者の期待に沿えるようにしなければならぬと思うがゆえ、想像を超えた試練もたくさんありました。

現代恋愛小説やコミックはすぐにテレビドラマ化され映画化されていきます。渡辺淳一の『難破船』という絡みばかりの不倫小説は経済新聞に連載された後、子どもが起きている時間帯にテレビ化され、映画にもなりました。

これがいったい読んでなんの肥やしになるのかなあ、と思うような小説が芥川賞や直木賞な

どを取っていきます。当時の私は文学賞なるものは、一年間発行された本の中から審査で選ばれるものとはかり思っていましたから、とにかく発行すりゃいいのだ、くらいにしか思っていないませんでした。ところが、同人誌のようなものに頻繁に投稿している人の中から選ばれます。新聞紙上に作品募集の記事が載らないのは当たり前だったのです。でも、私はこの人たちには負けないという自負がありました。それは、登場人物のハンナのモデルが本物だったからです。

ハンナのために頑張ろうと思いました。大きな本屋さんに行っては、店員が見てないうちに『当店の売り上げナンバー・ワン』と書かれた陳列棚にさっと置いてみたり、縦に並んだ本を横に平積みしてみたり——そんな姑息なことをやりながら、なんて惨めなんだろう、やっぱり医者が一番いいのかなあ、などと思うばかりでした。

やがて、ある人の紹介により、音楽付きの朗読で毎日十五分間のラジオ番組として一ヶ月間放送されることになりました。そのあと、ラジオ局の部長が気に入ってくださり、ラジオドラマにどうだろうという打診がありました。『有能な脚本家を雇うお金もなければ監督もいないから、香川先生やって頂戴、声優だけはいるから……』ということで、全くのボランティアで脚本から監督までしてしまうことになったのです。

百七十ページの本をたった二十五枚の脚本原稿にまとめなくてはなりません。作者にとっては、どのシーンも捨てがたいのですが、ぼっさぼっさと切り捨てていきます。声優たちは昼の仕事をしているため、夜になるとどこからともなく集まってきます。彼らは初めから上手いものと思いきや、声はともかく、監督（私）の思い描くような雰囲気になかなか仕上がりません。こちらが演技して伝えたり、配役を変えたりしたこともありましたが、一年間の練習を積みながらやっと収録が完了しました。

ラジオドラマの監督でも相当面白かったから映画監督なんて病みつきになると思います。しかし悲しいかな、ラジオ人口なんて少数です。その中でたまたま聞いた人はほんのわずかだったことでしょう。でも見事、中央のラジオ協会からこの世に残すべき優良作品として、永久保存版に認定されました。しかし、田舎での快進撃はそこまでです。



処女作『ザ・ヴァイオリン』

## 不思議な国のよしこさん

やがて、本物のハリウッドプロデューサーをしていたことのある日本在住のアメリカ人や、日米合作映画を作る日本映画の人などから、いい物語だからやってみたいというオファーがありました。ところがリーマンショックだとか、米国脚本家協会のストライキだとか、いろんな向かい風が吹き荒れて延期につぐ延期で中断されてしまいました。

しばらくするうちに、英語翻訳原稿が仕上がってきました。その校正段階を踏んでいたとき、某ユダヤ人社長から翻訳原稿を見たいので送ってほしいという依頼がありました。そのタイトル『アヴェ・マリアと梵天の子供たち』を見たユダヤ人社長は、

「ユダヤにはキリスト系ユダヤ教と正統ユダヤ教があって、正統ユダヤはイエス・キリストを認めていません。当然その母であるマリアも認めていないので、このタイトルはいかがなものか……」と言うのです。

なかなか難しい宗教の壁に直面してしまいました。聖書を読んだことのない私は、旧約聖書・新約聖書などを読み漁りました。たとえフィクションとはいえ、ひとつでも間違いがあれば、「それみる、うそつきユダヤ人め。アウシュヴィッツなんか、なかったんだ！」という

バッシングにあうので、非常に厳しく審査されました。それでも、本を読んだユダヤ人社長は、三日三晩泣き通したそうです。

(そんなに泣く話かなあ……?)

書いた本人はその程度なのですが、さすがユダヤ人です。タイトルを『アヴェ・マリアと梵天の子供達』から『The Violin』に変更し、「アヴェ・マリアはシューベルトの音楽であり宗教上のものではありません」と注釈をつけ、表紙には「based on true story」(本当にあった話に基づいています)と書き添えることを条件にOKをいただきました。

こうして本は大物ユダヤ人の手元へと紹介されていきました。ところが、手から手に渡るとき、いつも同じ質問をされるそうです。

「なぜ日本人が我々ユダヤの話を書いたんだ? まことに不思議な国のよしこさんだ」と。すごく不思議でならないそうです。

しばらくしてユダヤ人たちが私を誘い、徳島のあちこちに連れて行くのでした。それが不思議な不思議な、日本の始まりの歴史を紐解ひもとききっかけになり、はたまた、徳島に住んでいる日本人の私がなぜユダヤの話を書いたのか? 脈々と繋がる二千五百年前に行方知れずとなったアーク(ソロモンの秘宝)のパワーやヤハウエの神の気が私に乗り移ったのではないかと

思えるような快進撃が始まって行くのでした。

ここから「不思議な国のよしこさん」としての運命が開けていきます。その運の開け方はまるで、神ヤハウエの力を借りて、海を割りエジプト捕囚のユダヤ人をイスラエルに連れ帰ったモーゼのような勢いです。無信仰の私でさえ、ひよっとして神様は本当にいるのではないだろうかと思えざるを得ないほどになっていきます。

## 第二章 イスラエルの滅亡から 日本の歴史が始まるのは 偶然ではありません



日本人が単一民族（本当は単一民族ではありません。それはのちほど……）というわりには、日本の始まりがわからないというのは不思議だと思いませんか？ 西暦六〇〇年以前の歴史はどうだったのか。明日香村あすかむらの前には都がどこにあって、倭国や邪馬台国よマトクがどこにあったのかもいまだに分からないなんて、そんな不思議なことがあるでしょうか？

\* 一般的に「邪馬台国」とされていますが、正しくは「邪馬臺国」と書き、「ヤマトコク」と読みます。本書では紛らわしさを避ける意味で邪馬台国と書き進めます。

### 磯上乃古事記／古事記は日本発祥の地「磯上乃古国」の出来事を記したのも

七十二年（和銅五）、「偽りを削り、真を定め後世に伝えんと欲す」という勅命が発せられました。奈良（大和やまと）大倭おおやまとに移住した後、ようやく都の基礎が固まった大和朝廷の天武天皇が、いにしえの先帝たちの歴史を正しく伝えんがために『磯上乃古事記』を編纂へんさんしました。私たちは単純に『古事記』と言っていますが、正式名は『磯上乃古事記』なのです。

ところが、わが国の国号が「日本」になったのは六〇三年、小治田宮おはりのみや（推古天皇）——聖徳太子の時代ですから、七十二年には『日本乃古事記』と題名が付けられてもおかしくないので

すが、そうではなく、磯上乃古事記と題したのは『古事記』が日本全体の歴史ではなかったということなのです。『古事記』は古代日本の発祥地「磯上乃古国」の出来事を記した歴史書だという認識を持たなければなりません。（『道は阿波より始まる』より）

現代ではイザナギやイザナミ、神武天皇などは、みんな伝説上の人物とされています。語部の稗田阿礼ひたのあれは大嘘つきの小説家だったとでもいうのでしょうか。日本の始まりは近畿だ、出雲だ、九州だなどと説が分かれていて、それぞれの地方は、それをあてに商売しているものです。だから今さら引っ込みがつかえません。主義主張はむなしく繰り返され、歴史学者はどんな資料を根拠に論じているのかさえも定かではありません。

そんなことより、ユダヤ人がどんな情報を教えてくれたかを早くお話したいのですが、その前に、これからお話しするユダヤ人と日本人の関係は、旧約聖書が分かっているければ理解しにくいので、そこから始めるとしましょう。

日本人とユダヤ人は何らかの繋がりがあるかも知れないと言われています。よく調べていくと確かに関係はあるのですが、現在の日本人は、いろいろな民族とシャッフルされたDNAの一部にしか過ぎないと思って読んで下さいね。話は三千五百年以上昔にさかのぼります。

## 旧約聖書とアラブ世界が日本とリンクする不思議

メソポタミア地方のウルという町に住んでいたアブラハムは、一族とともに安住の地を求めて旅に出ました。

旅の途中で「お父さんが病気で死んで困っています」と神様に告げたところ、「アブラハムよ、お前はカナン（現在のパレスティナ）へ行け、そうすれば、お前を大きな国の祖にしてやろう」と言われました。

長い旅の末、やっとの思いでカナンに着いたものの、そこは豊かな土地ではありませんでした。なかなか子宝にも恵まれず、仕方なく妻サラの女奴隷、ハガルとの間にイシュマルという男児が生まれました（ちなみにアラブ人はイシュマルを自分たちの祖先だと信じています）。

アブラハムが一〇〇歳になったとき、妻サラとの間にようやく一人息子、イサクが産まれます。ところが、神様はイサクを生け贄にするよう命じたのでした。アブラハムがモリヤ山の祭壇の上でイサクを殺そうとしたそのとき、アブラハムの忠誠心を悟った神様は、彼を救いの主人公とすることにしました。

面白いことに、長野県の守屋山の麓にある諏訪大社には、この話と同じような行事「御頭

祭まつり」があります。アブラハムの父テラの出生地はタガーマ州のハラン町です。どこかで聞いたことがありませんか？ これを漢字にすると高天原（たかまがはら）となります。

一命を取り留めたイサクには、エソウとヤコブという男子が生まれ、ヤコブには十二人の男子が生まれました。あるときヤコブは天使と相撲をとり、みごと打ち負かしました。天使は「これからは、神様と戦う者という意味で、イスラエル」と名乗りなさい」と言いました。この天使と相撲をとったのが「相撲」の起源で、相手が神様の使者なので神事となるわけです。日本の相撲で行司が「ハッケヨイ、ノコッタノコッタ」と言うでしょ。単なる掛け声だと思われていますが、古代ヘブライ語で「ハッケ」は撃つてしまえ、「ヨイ」はやっつけろ、「ノコッタ」は、あなたは敵を打ち破った、という意味だそうです。なぜ、日本だけ神事として相撲が定着したのでしょうか。不思議ですね……。

「イスラエル」と改名したヤコブの家系は「イスラエル十二支族」と呼ばれるようになりました。それぞれに次のような独自の気質があります。祭祀を司るレビ族もいましたが、普通はヨセフの二人の息子、マナセとエフラムを数えて十二支族とします。

・威厳があり奔放なルベン族

- ・暴虐的なシメオン族
- ・指導力があり王権のあるユダ族（たしか、ベン・ハーはユダ族だったと思います）
- ・マムシのように狡猾的なダン族
- ・美人系で善良なナフタリ族（イスラエル国家の歌詞を作った人の家系）
- ・防衛的で正義感に富むカド族（日本はこのカド族が中心になっていると言われ、御カド族だから「ミカド」。カド族の最初に生まれた長男の名前を「ニエツポン」と言います！）
- ・王の食卓に美食を供える穏やかなアシユエル族
- ・ロバのようにたくましいイツカサル族
- ・海辺に住み船の管理をするゼブルン族
- ・好戦的なベニヤミン族（ネタニヤフ元首相はベニヤミン族出身と言われています）
- ・大自然の祝福と恩恵を受けたマナセ族
- ・国々の民をことごとく突き倒していくエフラム族

## 旧約聖書の中心人物ヨセフとモーゼ

ヤコブと息子たちはイスラエル南部のネゲブで暮らしていましたが、ヤコブはヨセフだけを

溺愛したので、他の兄弟にねたまれ、十七歳のときに奴隷としてエジプトに売られてしまいます。エジプト高官の召使になったヨセフは、主人の妻から情事に誘われましたが、これを断つたために逆恨みされ投獄されてしまいます。しかし監獄長から信頼される囚人として、副官的立場になります。

その二年後、エジプト王が変な夢を見たとき、なぜこんな夢を見たのかいろんな知恵者に聞いてみたけれど、誰ももってもらえない答えを返せません。そこでヨセフは、来る七年の豊作と七年の凶作を予言すると同時にその対策も提言したので、王は彼の能力を信頼して首相に任命しました。

彼の予言は的中し、大凶作に見舞われたときでも、エジプトだけは十分な備蓄があったため深刻な被害に遭うことはありませんでした。そして、ヨセフの兄弟が飢餓に襲われ食料を求めてエジプトまで来てみると、まさかのヨセフが首相になっていました。兄弟は和解し、エジプト王は「一族が苦しんでいるなら、みんなもエジプトで暮らせばいい」と言ってナイル川と現在のスエズ運河に挟まれた「ゴセン」の地を与えました。

十万の民はゴセンで豊かに暮らしていましたが、ヨセフが死ぬと、経緯を知らない新エジプト王は十二支族を迫害し、彼らは四百年間にわたり奴隷となっていくのです。迫害が頂点に達した紀元前十四世紀、ハリウッド映画の『十戒』でおなじみのモーゼがレビ族から誕生します。

モーゼは、エジプト王女に拾われ養子になります。あるときモーゼは、自分には王となる資格があるという出生の秘密を知り、同胞を救うことを使命とします。『旧約聖書』によると、「モーゼは神の使命を受けた」ということになっています。まあ、突き動かされる使命感を持った人物というのは、「神の使命を受けた人」なのかもしれません。

モーゼが神の力を借りて奇跡を起こしながら十万人の民をイスラエルに連れ帰るまでの話『出エジプト記』が旧約聖書です（新約聖書はその後のイエス・キリストの話です）。その中に、一夜にしてエジプト中の長子が死亡するという「過ぎ越し事件」というのがあります。ユダヤ人と非ユダヤ人を識別するため、ユダヤ人の玄関、鴨居、柱には羊の血を塗っておくというものです。それが日本の朱色に塗られた鳥居の由来で、「トリイ」は古代ヘブライ語で「門」という意味です。

## 十二支族とヤハウエの民の約束の地カナンは日本

かくしてエジプトを脱出した十二支族でしたが、シナイ山の麓まで来たとき、山に登ったモーゼはヤハウエの神に会い「十戒」を授かります。そのときモーゼが「本当に神はいらっしゃるのですか？」と尋ねると、神様は「エヘイエ・アシエル・エヘイエ（我は在りて在るもので

ある）」と答えます。それと同じ言葉が天皇の三種の神器のひとつ「八咫の鏡」の裏面に古代ヘブライ語で刻まれています。どうしてなのでしょう……。

モーゼは雄弁ではなかったため、兄のアロンがモーゼに代わって民衆の前で神のお告げを喋ったのですが、そのアロンの子孫が元駐日イスラエル大使エリ・エリヤフ・コーヘン氏です。アロンの家系なので他のイスラエル大使とは格が違い、世界のユダヤ人からも特別に扱われる存在なのです。

この「十戒」を基本として、多くの厳しい戒律を加えたのが「ユダヤ教」ですが、あまりにも厳し過ぎたため、これを打ち壊したのがイエスです。それが原因で磔の刑になり、磔にされたことでイエス・キリストの存在が知られるようになって、イスラエルの神ヤハウエは、世界万人の神となったのです。

十二支族が荒野を四十年間さまよううちにエジプトは弱体化し、彼らはエジプトの支配下にあったカナン（パレスチナ）に到着しました。このカナンこそ、神が与えると約束した「乳と蜜が流れる地」だったのです。

ちなみに、古代の日本は「豊葦原瑞穂国」とも言われていました。古代ヘブライ語で東方の日出る国のことを、「ミズホラ」と言い、約束の地カナンのことを「アシハラ」と言います。だから、日本は「東方の日出る国、約束の地カナン」ということになるのです。

## 羊飼いのダビデの黄金の七十年から民族離散へ

十二支族の中のベニヤミン族出身のサウルは外敵と何度も戦い、イスラエル支族連合の初代の王となりました。やがてペリシテ人との苦戦が続き、民衆の支持率も低下していった頃、頭角を現したのが羊飼いのダビデです。ダビデはイスラエル南方支族連合の王となり、ペリシテ人を撃破しながら周辺諸国を制圧していききました。

イスラエル北方支族はサウル王の子、イシバルが引き継いでいましたが、イシバルが亡くなり、サウル王の娘を妻としたダビデは、北方支族連合の総意のもとで、紀元前九九三年に十二支族二代目の王となりました。

ダビデはユーフラテス川からエジプト国境までの大イスラエル王国を築き、近隣諸国と友好条約を結ぶなど、したたかな外交術で国家に繁栄をもたらしました。しかし、彼は人妻を誘惑しては関係を結び、その夫を戦死させるといったこともしたそうですよ。

その後、異母弟のソロモンがダビデの跡を継ぎます。ソロモンは、エルサレムのモリヤの丘にソロモン第一神殿を造営し、そこに「十戒が刻まれた石板」、「アロンの杖」、「マナの壺」を収めた契約の箱「アーク」（二二六頁参照）を安置し、民族の宗教的中心地としました。

こうして貿易も盛んになり、イスラエルはかつてない繁栄を極めていくのでした。しかし、それを維持するための重税によって、イスラエルは北イスラエル十支族と南イスラエル二支族に分断されることになり、ダビデが築いた黄金の時代はわずか七十年で崩れてしまいます。北イスラエルは、独立から二百年後の紀元前七二二年にアッシリア帝国に滅ぼされ、民は奴隷としてアッシリアに連行されたのち、二度と帰ってくることはありませんでした。それが「失われた十支族」と呼ばれるようになり、今でもイスラエルのアミシャブ特務機関が世界中でその子孫がどこにいるのか探索を続けています。

一方、南イスラエルの南ユダ王国は伝統的にダビデの王統として重視されたために、王家の血統が長く保たれていました。しかし、ここでもアッシリアの圧迫が強くなり、その影響で異教化が進んでしまいました。そのうち、南イスラエルは新バビロニア帝国に滅ぼされ、全員が「バビロン捕囚」となって連行されましたが、新バビロニア帝国が崩壊した際には解放され、イスラエルに帰還してエルサレムに「第二神殿」を再建した——というのが旧約聖書とその後にくイスラエルの歴史です。イスラエルの滅亡からほどなくして日本の歴史が始まります。

天皇家のマークや日本のパスポートは、いずれも十六花卉菊花紋で、エルサレム門にも王家の石室にも同じ印が付いています。さらに、伊勢神宮の灯籠にもダビデの六芒星（ユダヤのマーク）と、十六花卉菊花紋があしらわれています。

『古事記』に登場するイザナギは古代ヘブライ語で「イシュアナギ」と発音し、「守りたまえ、ダビデの王統を」、イザナミは「イシュアナミ」と発音し、「守りたまえ、ナミの血筋を」という意味です。イザナミの「ナミ」はダビデの祖母の名前です。やがて登場する神武天皇の本当の名前は「カムヤマトイワレビコノミコト」といい、古代ヘブライ語で「神の選民を集めた偉大な開拓者」という意味です。どうしてもなのか不思議でしょう。



天石門別八倉比賣神社奥の院の五角形祭壇。向かって左手前が、日本最大級のパワースポット

私の家の近くにある徳島の天石門別八倉比賣神社の奥の院（前頁参照）には、卑弥呼の祭壇と呼ばれる青石で組まれた五角形の建造物があり、その道すがらには五芒星の灯籠や五角形の井戸があります。この奥の院は、日本で最も強い気を感じる超パワースポットとして知られています。ちなみに祭壇に向かって左斜め手前の位置が最強で、天照大御神（卑弥呼、日神子）の気が降臨する場所だそうです。私は残念ながらそういうのはまったくわからないのですが、大抵の人はかなり強烈な「気のパワー」を感じるそうです。そこら中の人に、どういふものなのか聞いてみると、誰もが「静まり返ったような深い静寂さの中に、心は一切の邪念などよぎることなく、まさに無になり、重く地に足が付いたような重力感を身体全体に感じる」と言うのです。そしてこれだけの引力は他では感じられないほどだと言います。

伊勢神宮の仰々しいくらいのアミューズメント的神事に人々のご利益を求め、いつも多くの参拝客で賑わっています。見事な太い幹の木陰からまっすぐ射す木漏れ日は実にさわやかで、巫女さんの鮮や



伊勢神宮の灯籠

かな舞と雅楽の音色は、これがきつと日本の風雅なんだろうなあと感じさせる、清々<sup>すがすが</sup>しさのあ  
るいいところ。赤福餅もいっぱい買って心は満足、また行きたいところでした。ただ、あ  
る知人のおかげで一般礼拝の人が入れないところまで特別に案内されたとき、どの位置にも八  
倉比賣神社のようなしっとり、ずっしりとした重い「氣」を感じる場所はありませんでした。  
天武八年五月六日、伊勢神宮は大和朝廷吉野宮の会盟による大秘密政策の一つとして、八倉  
比賣神社を隠すために造られたとも言われています。

『阿波国徴古雜抄』という古文書には、平安後期の延久二年六月十八日の太政官符に「八倉  
比賣神の祈年月次祭は邦国之大典也」と、奉幣を怠った阿波国司を厳しく叱っている記載があ  
り、これをもても神威のただならない様子、日本一の大典行事であったことが分かります。伊  
勢神宮は、明治時代になって、大日本帝国政府により全国の神社の頂点に指定されたことで今  
があるのです

それまで私は、伊勢神宮とは、後の世に天皇の勢力が大きくなって、それなりの神事を行う  
場所として新たに必要になった場所であり、遷都に伴う新しい施設としても大切なのだと思っ  
ていました。しかし、よく調べてみると、徳島の鮎喰川<sup>あいくい</sup>西岸から国道一九二号線以南の広大な  
国府町<sup>こくふまち</sup>一帯を越え、更に川を越え、入田町<sup>にゅうだまち</sup>の四国霊場札所大日寺<sup>おほひだいにちじ</sup>を含む範囲までが古代の八倉  
比賣神社の社寺であり、今の伊勢神宮以上に大きな所領があったところでした。それが戦後の

領地払い下げによって、なんとまあ、氣延山<sup>きののべやま</sup>の端っこの誰も振り向かない哀れなほど小さな古  
宮のみになってしまっていたのです。

氣延山は国府町矢野神領、日本随一、一挙に二百基の大古墳群を抱えていて、卑弥呼の本当  
の塚は氣延山の山頂（二百十三・三メートル）にあります。『魏志倭人伝』には塚の高さが山  
の高さになるため記載されていないのです。塚の長径は百歩<sup>ぶ</sup>ちよいくらいで、『魏志倭人伝』  
による卑弥呼の塚の記載「卑弥呼以死大冢塚径百余步御葬者奴婢百余人」にびつたりと一致し  
ています。それなのに、近年のニュースで、奈良県桜井市の箸墓古墳<sup>はしほか</sup>のことを「これが卑弥呼  
の墓だろう」とやたらにでっかい塚が紹介されていました。理由は「卑弥呼が大物だから大き  
な墓に違いない」のだそうです。でっかければいいというもんじゃありません。ちゃんと、百余歩  
と書いてあるのに、古人の記載なんてまったく無視して信用せずに「大物だからきつと」とい  
う発掘者の個人的な想像のほうがあたかも正しいがごとく報道されるのは、いったいどうい  
うことなんだろうと思います。

こういうことが平然と躊躇なく繰り返されてきたものですから、元なる魂のルーツ、日本人  
のアイデンティティーなるものを失うことになり、日本の行く末をリードする総理大臣でさえ、  
わけの分からないことを言い出す始末です。知っていたらもっと、日本の領土や未来を大切に

第三章

有力なユダヤ人も次々と訪れる  
つるぎさん  
剣山に隠された伝説



## ヒヒラギで建てられた八倉比賣神社

八倉比賣神社の八倉とは、「いわくら」（墓）が訛ったものです。紀元前三八〇年頃の創建で、一一八五年に神階最高位正一位とされています。

この神社は、ほかの大きな神社仏閣のように大きな杉やヒノキではなく、ヒヒラギで建てられています。気延山の往診先のおばあちゃんも、「太い幹じゃないヒヒラギで本殿を建て替える作業は、本当に大変だった」と証言しています。宮司さんもおばあちゃんも「ヒヒラギ」とおっしゃいましたが、聞き直してみると、「ひひらぎ」（杠谷樹）、つまり「イヌマキ」（犬楨）のことで、赤い実のなるクリスマス木の『柎』ではありませんでした。ユダヤ人が神事やお正月の過ぎ越し祭り（ユダヤ人とエジプト人を区別するために行った方法の一つで、日本で門松を立てる風習の源流）で使う常緑樹です。

『古事記』には、天照大御神の「魂振り」について、「我が御魂を船に座して、眞木の灰を瓢に納め云々……」とあります。ここでいう魂振りとは、自分の魂を高次元に持っていくために瞑想し集中して奮い立たせるといふ儀式です。イヌマキは、燃やすと跡に純白の真綿のような灰が残りますが、いろんな樹や同種の高野楨で試してみても、そんな灰にはなりません。

徳島・淡路島・東讃地方（香川県の東部）の古い神社には、必ずイヌマキが植えられています。八倉比賣神社の鳥居もイヌマキです。拙宅から歩いて五分くらい南東の土手下に立つ鳥居は、まさに「ひひらぎ」の鳥居です。

宮司さんに「なんで気延山の神社からずいぶん離れたこんな場所に鳥居が建ってるんですか？」と聞いたところ、

「今はこのとおり土手下ですが、太古の昔は、そのすぐ東の鮎喰川の土手の上にあったんです。その鳥居の中から西を見ると気延山の頂上が見えます。卑弥呼の墓は気延山の頂上にあるんですよ。そのずっと先は元山、剣山に通じています。この鳥居は、足腰が悪くて山に登れない人のための参拝所なんです」と話され、なんとなく納得しました。

## 阿波神代文字と祝詞

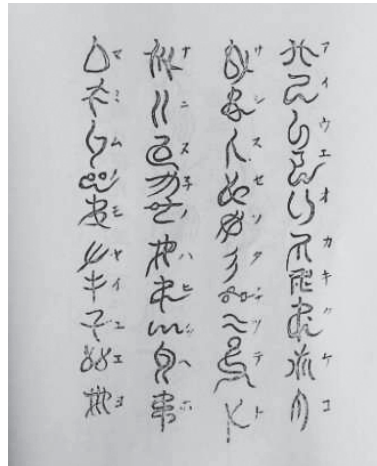
天照大御神と呼ばれた大女王・日神子（卑弥呼、大日靈命）に関することが、八倉比賣神社の『天石門別八倉比賣御本記』に記されています。それとともに神社では『阿波神代文字』も所有されています。

神官が神に捧げる祝詞は、阿波神代文字が使用されています。なぜかといえば、祝詞には声にするると漢字では表せない言魂ことたまが宿っているからだそうです。世界にはいろいろな言語がありますが、言葉に数理をもつ言語は世界の中でも（古代）ヘブライ語、アルファベット、日本語の三つしかありません。数理を持つということは、数学理論を持っているということで、宇宙自然摂理の法則で成り立っています。

わかりやすく言えば、「音」に直した言葉同士が数字を介してお互いに関連性を持っているということなのです。例えば、日本語の「四」は「死」、アルファベット四番目の「D」は「die」[death]に相当します。このように数字と文字がある関連性を持っているものを「数理を踏む」と言います。濁音を普通音にして「ん」を削ると、言魂はより美しい響きの波長を伝えることができるのです。

（四国剣山顕彰学会刊より）

ここまでくると私にはうまく説明できないのですが、実際に見たり、声に出して読んでいたりすると、心地よく馴染むような



阿波神代文字の一部  
岩利大関著『道は阿波より始まる』（京屋社会福祉事業団発行）より引用

自然な音律波長というのでしょうか、そういうものがなんとなく分かってきます。

阿波神代文字は、まだ文字のない縄文初期から剣山系にすであつた文字で、のちにシユメル文字の解説に苦労していたとき、これを宛あてがうと解説できたといえます。

それどころか、聖書に書かれている文字は、阿波神代文字とそっくりなんです。神代文字は五十音順に並んでいるから、平安京以降のでっち上げだとか言うひどい国学者がいるようですが、縄文時代には五十音は確立されていたのです。

戦後のどさくさに紛れて、自称国学者なるものが自分の足で歩きもしないで、古代の先人たちが書き残したものをまるで逸話として扱い（実は、王政復古のために神格化が必要だった明治天皇を利用した日本政府の策略だったので——）、間違いだらけの資料をもとに更に新しい説を掲げて、なんの根拠も説明もなく古墳一つを、さもそうであるかのようにマスコミで堂々と発表したりするものですから、地元ではそれを当て込んで商売繁盛、飯の種もとです。本居宣長のりながも自分の足で歩くことなく知っている地名に合わせて書いた国学者の代表で、その間違いだらけの『古事記伝』が、現実と一致しないからおかしいとずっと思われながらも、今日まで第一級の資料として残されてきました。当時の万葉学者、賀茂真淵かものまぶちでさえも、万葉歌の風景と『古事記伝』の地名が一致しないので、『古事記』そのものが間違いではないかと疑問に感じていたそうです（阿波を隠すために、阿波の地名をことごとく他の地方に付けていったため、混

乱の原因になりました。

正さなければならぬはずの宮内庁は、そのルーツを明かすわけにはいかないのか、明かすと何かとんでもないこともあるのか、こういうおかしなことがいつまでも日本人の曖昧さとして残っています。日本国民としてのアイデンティティーが確立されていない証拠です。

グローバル時代にはアイデンティティーは特に必要になってまいります。アメリカに移住した二世以降は、アメリカ国籍である前に、自分のルーツやアイデンティティーが思春期のうちに確立されないと、犯罪に手を染めたり、社会から無視されたりするようになります。移民して家庭を持つということは結構大変な一面があります。ルーツは様々なれど、個人あってこそ愛国心であり、その意識を統一するために国歌と忠誠旗があるのがアメリカで、それを考えると、日本人も早く自分たちのルーツを知り、似非学者の餌食にならないように注意しなければ、世界からいとも簡単に「爆弾なき平和的侵略」を許してしまうことになるでしょう。

## 女王卑弥呼と剣山

《天地の 初めの時し ひさかたの 天河原に八百萬 千萬神の神集ひ集ひまして神分ち 分ちし時に天照らす 日靈命天をば知らしめすと葦原の瑞穂の国を 天地の依り合ひの極み知ら

しめす 神の命と天雲の八重搔き別きて神下りいませまつりし天照らす日の神子は……》『万葉集』巻二「挽歌」の部より―柿本人麻呂―

日神子(ひみこ) (卑弥呼)の死後の名は「大日靈命(おほひるめ)」といわれ、天照大御神と同一人物です。『古事記』では、大宜都比賣(おほげつひめ)という穀霊名で登場します。天照大御神は平安時代になって作られた神名で、卑弥呼というのは中国のあて字です。柿本人麻呂の万葉歌でも分かるように、天皇のことを倭人は「天照らす日の神子」と尊称で呼んでいました。ですので、これから先は卑弥呼と書かずに「日神子」と書くことにします。柿本人麻呂も阿波の人です。彼の歌には、気延山とその古い地名「矢野神山」が随所に見られます。

雲のいる八倉のさとの気延山 下つ岩根に宮井そめつも

妻隠る矢野の神山露霜に にほひそめたり散巻惜しも

その他の人の歌もついでに……

名も高き矢野の神山小夜深く 速弓張の月もいるらし (光俊)

雁なきて寒き朝気の露霜に 矢野の神山色つきにけり (鎌倉右大臣)

「日の神子」で思い出しました！ 二〇〇九年に元駐日イスラエル大使、エリ・エリヤフ・コーヘン氏と座談会をしたときのことです。

**私** なぜ、ユダヤ人はノーベル賞を四十%の割合で取ることができたのですか？

**コーヘン氏** それは、私たちが神の子だからです。

**私** 《出た〜！ まさにユダヤ、神の子発言。》

**コーヘン氏** あなたたちもまた、神の子です。ただ、とらえ方が違います。困ったときの神頼みで神様に任せているだけの態度と、神が自分に付いて下さっているから困ったときも乗り切れると思っ、常に前進していこうとする姿勢や意識とは、おのずと考え方も違ってきます。

**私** なるほど！ 人生踏みとどまってはいけない。神が付いているのですからね！

話を戻します。先ほど八倉比賣神社の奥の院にある五角形祭壇の先端が剣山のほうを向いていて、剣山の参拝所にもなっていると申しましたが、なぜなのでしょう……。

剣山には（アークソロモンの秘宝）が隠されているという噂が、戦前からあるからです。

二〇〇八年十月末にニューヨーク在住のユダヤ人社長と初めて剣山に登りましたが、その数

カ月前には、世界一の大富豪、ユダヤ人ロスチャイルド家の某氏や歴史学者のアビグドール・シヤハン博士も極秘で登ったという噂を聞きました。まさかユダヤ人が人知れず剣山に登っているなんて、徳島新聞にも載りませんから地元の人だって知らなかったと思いますよ。

二〇〇九年五月、私たちは倭国研究所の大杉博士のご案内で、コーヘン氏やさまざまな県の企業代表者たち四〇名のツアーで剣山に登り、アークが収められていると言われる鍾乳洞を探検しました（写真）。

剣山は昔、「鶴亀山」と呼ばれ、それがいつのまにか「剣山」になったのですが、一時間半コースの山頂から少し手前に大きな鶴石と亀石があります。現在は頭が取れて鶴には見えませんが、その下には鍾乳洞が広がっています。

洞窟内は真っ暗で人一人しか通れず、前の人が次の人のために懐中電灯で足元を照らしながら、次々に降りていきます。不思議な



(上) コーヘン氏と剣山に登る (下) アークへの入口

ことに、両サイドの壁はノミのようなもので人の手が加えられています。少し先に進むと、左右に分かれる穴があります。右の穴は古い不動明王像が刻まれた石板で完全に蓋をされています。いったい、いつ頃、何の目的で、誰がそうしたのでしょうか。

洞窟を出ると、今度は道なき山道です。ある大きな苔むす岩まで行ったとき、大杉博士が「この真下にアークがあると予想しています」とおっしゃるので、私たちはお互いに記念写真を撮ろうとするのですが、なぜか真つ赤な火柱がデジカメの画面を覆って撮ることができません。やっと撮れたと思ったら、左上にUFOよりも珍しい原始星雲誕生の様子が写っていたり、ユーチューブ配信のドキュメント撮影班がインタビューを始めると「バーバー」という雑音が入ったりと、なんとも奇妙な場所でした。

さらに不思議なことに、登山の前日までは大雨で、今回は無理だろうと思っていると、当日の朝になると曇り空に変わり、山頂付近まで登ると、空だけ強い風が吹いているのか、雲がどんどん吹き飛ばされて晴天。ところが下山した翌日は大雨だとか大雪で、もう誰も行けない状態になってしまふのです。その次に登ったときもそんな感じで、登れるには登れるのですが、コーヘン氏も「前に登ったときも全く同じだった」と言っておられました。まさに、ユダヤ関係者が関わると、どんな嵐に遭遇しようとも、必ず雲ひとつない晴天に恵まれるという、不思議なお天気シンクロニシティになるのでしょうか。また、剣山山頂は他の山々とは違い、

ほとんど真つ平たいちになっていて、古代に人為的に整形されたとも言われています。

標高一九五メートルの剣山は、決して険しい山ではありません。まったく運動しない私でも、普通の運動靴で楽に登れます。ロープウェイを降りて二〇〇メートルほど歩けば山頂に到達します。山頂には美味しいうどん屋さんもありますので、ぜひ一度おいで下さい。

### 空海と「かごめ歌」／その封印と謎解き

『かごめかごめ かごのなかの鳥は いついつ出やる 夜明けの晩に鶴と亀が滑った 後ろの正面だあれ』というわらべ歌がありますね。この意味にはいろんな説があります。

《カゴメ（籠目）紋はイスラエルのマークで、ダビデの六芒星である。かごの中の鳥はアーク。アークはいつ出てくるのか？ 暗い夜明けに地震か何かで、鶴石と亀石が滑り落ち、鍾乳洞からアークが正面に出てくる……》という説。

もうひとつは、《神器を誰が守るのか、誰が安置されている神器を取り出すのか。それを取り除き、お守りと差し替えよ。そして誰もいない荒れ地に水を引き、そこを聖地として支配せよ》という説で、アークを隠した場所が「わらべ歌」としてずっと語り継がれるように空海が考案し、古代ヘブライ語と日本語をうまくかけ合わせた歌であるとも言われています。

空海の謎解き封印と同様のことは他でも見られます。八十八ヶ所の四国霊場はなぜ「八十八」なのか、唐に留学していた空海がなぜ途中で修行を打ち切って帰国したのか、密教とは本当は何なのか、位の高い有名な僧侶よりも、なぜ空海が重用されたのか。

八十八は「ヤー（神）を重ねて隠す」という意味です。神ヤハウエのヤとハの間にアポストロフィを打って「ヤー」と読ませます。ヤーで同じく神ということです。ヤッホーは神様への掛け声で、ヤーはそれを知っていて会社名にしています。やがてアポストロフィだけで、神を表す意味になったのが勾玉の形です。

その頃はすでに景教（キリスト教）が唐まで迫っていました。キリスト教の新バビロニア帝国に滅ぼされたときのようアークを守らなければならないので、朝廷は、唐に留学中の空海を日本に帰して、彼の知恵をもってアークを封印しようと考えます。空海は急いで帰朝し、八十八ヶ所の札所を設置して、四国入りした人が八十八ヶ所を巡る際、決して剣山に人の目が向かないようにしました。だから八十八ヶ所を回られたときに見てください。その道中に剣山を見ることはできません。本当に大切だったのは剣山であって、四国霊場はそれを封印して隠国にする結果線だったといわれています。そのおかげで、今日まで日本を守り抜いた空海は、どのお坊さんよりも大切な扱いを受けているようです。

大杉博氏の説によると、四国霊場の一番札所から十番札所の名前にも、空海らしくちゃんと意味を持たせています。

《御霊（一番霊山寺）は極上（二番極楽寺）の金（三番金泉寺）である。大地（四番大日寺、五番地藏寺）に安住（六番安楽寺、七番十楽寺）するために隈（八番熊谷寺）を法（九番法輪寺）で切（十番切幡寺）った》

さらに最後の霊場にも、

《山の上の国（八十番国分寺）は白（八十一番白峯寺）い。その根元（八十二番根香寺）は一族（八十三番一宮寺）であるそのヤハウエ（八十四番屋島寺、八十五番八栗寺）一族の歴史（八十六番志度寺）は長（八十七番長尾寺）大（八十八番大窪寺）である》という意味が封印されているそうです。山の上の国が白いのは、四国では太古の昔から剣山の野焼きをしていたため白い煙がたなびいていたからです。

私自身、アークを見ていないので確信があるわけではありませんが、ユダヤ人がわざわざこんな辺鄙なところに来ているのが面白いですね。前述のユダヤ人社長は、東京にも京都にも行かず、初めての日本旅行が剣山で、「シャローム」（さようなら）と手を振ってニューヨークに帰っていったのです。今度来日されたら、ぜひ聖書に託された平安京（古代ヘブライ語でエルシャローム、エルサレム）を見せてあげたいと思います。平安京は、シルクロード回りで来た

キリスト教系ユダヤ人とされる秦氏はたが中心になって造ったとはいえ、京都は日本の集大成で、おそらく世界の憧れの地だと思えます。あの研ぎ澄まされた古都の美しさに比べると、阿波の寂れた古宮なんてもうどうでもいいじゃないかって思ってしまうます。やっぱり、外国の人にはどこよりも京都に来てもらいたいものです（住むには徳島のほうがずっと魚が新鮮で気候も良いからお勧めですけどね……）。

京料理の鱧はちまも、すだちもジュンサイも、京菓子に使われる和三盆糖も、昔からみんな徳島のもを使用しています。大嘗祭だいじょうさいで使われる麻や供物も、古代から現代まで徳島から献上していますし、古墳に使用された石棺部分の青石は徳島の吉野川（古代はふる川といいました）からわざわざ奈良や京都に運んでいたのです。徳島の人はお接待精神と犠牲的精神があって優しく、いい意味でも悪い意味でもあんまり裏表がないのです。

### いろは歌にも意味が……／イエス、咎とがなくして死す

いろは歌を縦横に七つずつ並べると、「神ヤハウエの使徒イエス、咎とがなくして死す」という隠語が含まれていることが分かります（図）。「いちよらやあゑ」は、古代ヘブライ語で神ヤハウエの使徒。左角の「い・ゑ」と最後の「す」でイエス。最後の句「ゑひもせず」は、上段の

「やあゑ」が「モーゼの神」というギリシャ語「epi Moses」を受けています。モーゼはギリシャ語で「モセス」と言い、エビは「何から」とか「何の」という意味で使われるため、「やあゑ、ゑひもせず」はモーゼの神と解釈します。

いろは歌全体には、「救いを与える良い神は、神隠しのごとく逸話となり、罪もないのに死んで神の子となり巖いわとなった」という古代ヘブライ語訳が隠されているそうです。仏教の奥義を究めるため中国（唐）に旅立った空海は、そこで当時キリスト教の一派であるネストリウス派の教義に触れる機会に恵まれ、聖書を学んだことは周知の事実です。そこで悟った教えを折お句として字母歌にまとめたのが「いろは歌」だったのです。

朝廷の手前、イエス・キリストの教えを伝えるわけにいかないから仏教を隠れ蓑みのにして真の言葉を伝え教えたのが、後の真言密教へと発展していったと考えられ、どんな宗教宗派も結局は、根は一つだったということのようです。だから、宗教の違いで戦争するなんて本当にバカバカしいことです。

い	ち	よ	ら	や	あ	ゑ
ろ	り	た	む	ま	さ	ひ
は	ぬ	れ	う	け	き	も
に	る	そ	ゐ	ふ	ゆ	せ
ほ	を	つ	の	こ	め	す
へ	わ	ね	お	え	み	
と	か	な	く	て	し	

いろは歌を縦横に七つずつ並べた図

いろは歌のほかにも、もう一つ有名な日本古謡「さくらさくら」があります。いろは歌には、「やあゑ」や「もせす」など、聖書に関わる言葉が折句として含まれていましたが、「さくらさくら」には、旧約聖書に登場するイスラエルの預言者、イザヤの名前がそのまま出てきます。この名前には「神の救い」という意味があります。作詞者は空海の可能性が高く、古代ヘブライ語で読むと、「いろは歌」の折句とほぼ同じ意味の歌になるのです。

《(神が) 隠れてしまった。唯一の神が迫害を受け、耐え忍び、死んで、犠牲となり、くじで引かれ、とりあげられてしまった。素晴らしい神の計画である救い、その救いの捧げ物が成就した》

空海は、いろは歌という字母歌を使って折句の中で信仰の真髓を語り、更に神隠しの歌として「さくらさくら」を作って、信仰の告白の気持ちを含めたのではないかと考えられます。これは決して日本語と古代ヘブライ語の偶然の一致ではありません。歴史に永遠に残る天才空海の、次元を超越した霊歌だったのです。実際に空海なる人、言葉遊びが好きだったようです。(中島尚彦説より)

### アークと剣山のお神輿

剣山には、お神輿を七月十七日に頂上へ担ぎ上げるお祭りがあります。実は、日本のお神輿はアークのレプリカだと言われています。アークは金箔を貼った箱の上に「ケルビム」という羽を広げた天使が載っていて、運ぶときは二本の棒を通します。日本のお神輿にも鳳凰が載っていて、神の象徴として二本の棒で担ぎます。

七月十七日という日にも意味があり、昔々、ノアの大洪水があったとき、アークを担いでアラト山頂に運び上げた日が七月十七日でした。剣山のお神輿の大きさもアークと同じ大きさで、白装束に頭巾とんじんを額につけて運ぶのです。その姿はユダヤ司教の正式な衣装とそっくりです。京都祇園祭の山鉾巡行やまぼこじゆんこうも同じ日に行われ、鉾のタペストリーには、ヨセフの嫁選びとかエジプトの凶柄などがちりばめられています。それに、なんということでしょう。「祇園」の語源は古代ヘブライ語の「シオン(エルサレム地方の別名)」から来ているそうです。驚きの連続です。

旧約聖書の中で、イスラエルと日本の間にいったい何があったのでしょうか？

神はイザヤに対して、新バビロニア帝国が攻めてくる前にこう言います。



「この国はやがて崩壊する。イザヤよ、タルシン船にアークを載せ、イスラエルの代表者を連れて東の日出る島へ落ち延びよ。そこでこのイスラエルのことを全て忘れ、新たに本当の神の国、第二エルサレムを設立せよ」。これはイザヤ書、ヨハネの黙示録、その他の聖書に書かれています。

例えばイザヤ書では、

《主は言われた。「誰を遣わそうか」「誰が我々のために東の地の果てに行くだろうか」。そのときイザヤは言った。「私をお遣わし下さい」。主は言われた。「では、そなたが行って民に言いなさい。そして繰り返し聞くがよい。しかし悟ってはならない。繰り返し見るがよい。しかし解ってはならぬ》

《それは鳥々が私に向けて送るもの。タルシュツシュ（タルシン）船を先頭に金銀をもたせ、あなたの子らを遠くから運んでくる……》

また、エズラ第四書十三章では、

《彼らは、人間がかつて住んだことのない土地へ行き、自国では守ることの出来なかった規則をせめて守るようにとの計画をお互いに持ち合って、更に進んだ》

そんなわけで、どうか皆さま、四国に來られたら剣山が見えないことを確認して結界地を八

十八ヶ所巡り、空海の苦勞を味わってご機嫌よくお帰りください。八十八ヶ所最後の札所・大窪寺（香川県）の奥の院は、「えっ、これが奥の院？」と笑えるような掘つ建て小屋なのに、名前は高野山金剛峯寺と一對の寺院号で「胎藏峰寺」と言います。実は、そこまで行けばちらっとだけ剣山が見えるようにと憎い仕掛けを空海がしています。〃ご苦勞さまでした〃という空海自身へのプレゼントです。八二五年に空海が書にした『磯輪上乃秀真国之阿波国也』が、二十一番札所・太龍寺に残っています。

前章で古事記の正式名称は「磯上乃古事記」と申しましたが、その頃にはもう「日本」という国名になっているのに「日本古事記」とせず、わざわざ「磯上乃古事記」とした理由は、古事記に書かれてあることが日本全体のことではなく、磯上国の歴史だったからです。空海によると、磯の上にある優れた真の国は阿波だということなんですって。